



海外 稲門会の躍動

Overseas TOMONKAI

登録稲門会 検索

現在、約70の海外稲門会が世界各地で活動しています。海外に滞在する際は、現地の稲門会を検索して参加してみましょう。
※一部、活動休止中の稲門会もありますことを、ご了承ください。

会長メッセージ

2016年秋にトロント稲門会会長を拝命し、3年が過ぎました。これまでに先輩諸氏が築き上げてこられた、約50年にわたるトロント稲門会の歴史の重みを感じながら、さらに発展させていきたいと考えています。会員の皆さまが「トロント稲門会の行事に参加して楽しかった」と、温かい気持ちになる会を目指しています。

トロント市とその周辺を含むトロント地域は、600万近くの人口を有する北米有数の都市です。自然が豊かで、文化、芸術が盛ん、スポーツ分野でもカナダのお家芸のアイスホッケー、

野球、バスケットボールなどを観戦する楽しみもあります。中でも昨年は、NBA（北米の男子プロバスケットボールリーグ）で唯一のカナダチーム「トロント・ラプターズ」が優勝し、歡喜しました。

私は1984年にカナダに赴任し、11年目の本社帰任要請を断って以来、家族とともにトロント生活を楽しんでいます。「開かれた、家族で楽しめる稲門会」をモットーにしており、卒業生のみならず、早稲田に縁がある方々は歓迎です。

津島 晃(1971年商学)

会員からのメッセージ

トロントの雑踏を歩くと、いくつもの違う言語が聞こえてきます。でも、共通語の英語で話しかければ、ほぼ全員、気軽に会話に乗ってくれます。ここは多文化主義を掲げるカナダの中でも、最も多様性に富んだ場所であることは間違いありません。本来の姿を色濃く残したままそれぞれの文化が共存していますが、同時に皆がトロント人というアイデンティティーを共有しているのです。この絶妙なバランスこそが、トロントが多くの人にとって居心地の良い場所になっているゆえんかもしれません。先住民が軽視された歴史を反省し、みんなで知恵を出し合って、トロントがこれからどうなっていくのか、見届けていきたいと思ひます。

中原 緑(1986年文学)

(上)近郊で秋のハイキング
(下)忘年会

家族でトロントへ来たのが2017年12月。その冬は寒さが厳しく、特に年末年始はマイナス20度を下回っており、大みそかのカウントダウンも相次いでキャンセルになっていました。チャレンジな場所だなぁと思ひましたが、夏は日本のような湿度もない上、晴天が多く、災害なども極めて少ない、快適に暮らせる場所です。また、居住者にとっては、教育や医療などの無償化が徹底されており、政府による新規移住者へのさまざまな施策もあり、世界で最も暮らしやすい場所の一つと言えます。

門田弘蔵(1986年商学)

カナダの夏は短いですが、最高です。ゴルフ、カヌー、キャンプ、バーベキュー、フィッシングをはじめ、雄大な大自然の中、全力でエンジョイしています。冬は氷点下になるものの、スキー、スノーボード、スケート、カーリング、アイスフィッシングなど、カナダならではのスポーツも楽しむことができます。

多民族多文化政策により、英語もしくはフランス語という共通の言語ルールの下、多様化が進んでおり、海外でよく経験する「自分は外国人」という感覚はほとんどありません。カナダを愛する多くの駐在員は日本への帰任命令を悲しみ、空港で涙します。カナダを愛し、永住される方々はいつもエネルギーが豊富です。カナダは人間としての生き方を教えてくれる国です。

中村善紀(1995年商学)

都の西北から、北米東部のカナダ・トロントへ飛んで、駐在すること早2年。赴任前に大隈講堂を眺めながら「日本が恋しくなる海外駐在か……」と多少不安に思ひましたが、杞憂でした。学生時代に感じた刺激と、同窓の諸先輩方とお酒を酌み交わす温かさがトロント稲門会にありました。熱血早稲田の血が流れる諸先輩方が同じトロントで、そして世界各国で活躍されている様子に自分も勇気づけられます。トロントに、稲門会にぜひいらしてください。

山田高史(2011年教育)

トロント稲門会について

トロント稲門会は1968年に発足し、約50年の歴史があります。現在、会員数は40人ほどで、移住者、駐在員、留学生、ワーキングホリデーの方々など、同窓の絆を基に集まり散じています。年中行事としては、新年会、慶應三田会との合同忘年会、春秋のハイキングと飲茶ランチ、ゴルフ早慶戦、不定期行事としては、懇親会、グルメ会、バーベキュー、会員の歓送迎会などが行われます。ゴルフ早慶戦は伝統ある一大行事ですが、慶應三田会とは勝ち負けを争うのではなく、和気あいあいと楽しむことを目的としています。とはいえ、勝利はうれしいもので、昨年は稲門会に勝利の女神がほほ笑み、美酒を飲むことができました。

津島 晃(1971年商学)



伝統あるゴルフ早慶戦。夜にはノンゴルフファーも参加して食事会

トロントの魅力

カナダは、歴史的に広く移民を受け入れ、さまざまな文化が共存する、多様性を尊重する国として知られています。「文化の多様性」とは壮大なテーマですが、私はそれが個人の日常レベルでも実感できるところに、トロントの魅力があると思います。たとえば、人に包装されたプレゼントを渡したときに、「あなたのやり方で礼儀正しく受け取るには、今ここで開けた方がいいの？」と聞かれ、驚いたことがあります。

また、人が集まる場ではさまざまなバックグ

ラウンドの人々が英語を話しますが、ラテンなまり、インドなまり、フレンチなまりなど、聞き取りやすい英語ばかりではありません。その中で、辛抱強く耳を傾け合い、コミュニケーションを図ります。お互いが他人であることを根本に、理解し合う努力が自然と行われているトロントは、思いやりにあふれた、とても住みやすい街です。

モジョン直子(2003年政経)

(左)ハイウェイより望むトロントのダウンタウン
(右)トロントはナイアガラへの入口。奥がカナダ滝

